

3 カ月連続でペンギンの赤ちゃん誕生!

第三弾 オウサマペンギンの赤ちゃんが 2 羽誕生!

微笑ましい子育ての様子がご覧いただけます。

大阪市港区の海遊館では、平成 21 年 8 月 20 日(木)、8 月 25 日(火)にオウサマペンギンの赤ちゃんがそれぞれ 1 羽誕生し「南極大陸」水槽で公開中です。現在のところ赤ちゃんは親鳥のおなかの下でほとんどの時間を過ごしているため、赤ちゃんの姿をご覧いただける機会は少ないですが、誕生後 1 週間を過ぎる頃から徐々にご覧いただける機会が多くなります。

海遊館では 6 月 9 日にイワトビペンギン、7 月 19 日にジェンツーペンギンの赤ちゃんが誕生しており、今回のオウサマペンギンで 3 カ月連続でペンギンの赤ちゃんが誕生したことになります。

この赤ちゃんは、6 月 25 日(木)と 6 月 27 日(土)に、2 羽のオウサマペンギンが産んだ卵から生まれました。オウサマペンギンは、親鳥が交代で足の上に卵を乗せ、その上からおなかの皮をかぶせて温めますが、海遊館では、オスとメスが抱卵^{※1}を交代する際に卵が割れたり、水槽内のプールに卵が落下するなどの事故を防ぐために、産卵後すぐに卵を擬卵^{※2}とすり替え、卵はバックヤードのふ卵器で大切に育てて、親鳥たちには擬卵を温めさせていました。1 卵目は 8 月 18 日(火)に嘴打ち^{※3}



親鳥の下腹部から顔をのぞかせる赤ちゃん

を確認しましたが、嘴打ちが順調に進まなかったため、卵を親鳥に戻さずに、バックヤードで係員が 20 日(木)に人工的にふ化させ、大切に育てていました。その後、赤ちゃんの健康状態が良好だったことから、8 月 25 日(火)に親鳥の元に戻しました。2 卵目は 21 日(金)に嘴打ちを確認し、順調に嘴打ちが進んだことから、卵を親鳥へ返したところ、25 日(火)の午前 8 時頃に、親鳥のおなかの下にいる赤ちゃんを確認しました。

現在のところ、赤ちゃんはまだ小さく、親鳥のおなかの下に隠れているため、赤ちゃんの姿をご覧になれる機会は少ないですが、通常、誕生後 1 週間を過ぎる頃から赤ちゃんの姿がご覧いただきやすくなります。また現在でも一日に数回顔を覗かせ、親鳥が口移して餌を与えるなどの微笑ましい子育ての様子が確認されています。

オウサマペンギンの赤ちゃんは、全身に綿羽^{めんう}と呼ばれる茶色いモコモコの羽が生え、ふ

化したては体長約 10 cm、体重約 250g ですが、生後 1 ヶ月で体重約 2 kg、2 ヶ月で体重約 6 kgと、どんどん成長し、6 ヶ月後には体長約 90 cm、体重は約 12 kgと、親とほぼ同じ大きさになります。生後 8 ヶ月頃になると、茶色い綿羽が抜け落ちて、親と同じ模様になり、自分で餌を食べ始めます。

海遊館でのオウサマペンギンの赤ちゃんの誕生は、平成 19 年 9 月に続いて通算 30 羽目となります。

※1 抱 卵：卵を抱えてあたためること

※2 擬 卵：本物の卵に似せて作った卵

※3 嘴打ち：雛^{はしう}が卵の内側から卵の殻^{ひな}に穴をあけること

1. 【今回の繁殖について】

[1 卵目]

産 卵 日：平成 21 年 6 月 25 日(木) ※卵の長径約 11 cm、短径約 8 cm、重量約 370g

嘴打ち日：8 月 18 日(火)

ふ 化 日：8 月 20 日(木) ※産卵後 56 日目。ただし、飼育係員による人工ふ化。

雛の大きさ：体長約 12 cm (目測、8 月 27 日現在)

[2 卵目]

産 卵 日：平成 21 年 6 月 27 日(土) ※卵の長径約 11 cm、短径約 7 cm、重量約 330g

嘴打ち日：8 月 21 日(金)

ふ 化 日：8 月 25 日(火) ※産卵後 59 日目

雛の大きさ：体長約 10 cm (目測、8 月 27 日現在)

2. 【オウサマペンギンについて】

オウサマペンギン 英名 King penguin 学名 *Aptenodytes patagonicus*

ペンギン科。世界にいる 18 種のペンギンの中では、エンペラーペンギンに次いで 2 番目に大きく、成長すると体長約 90 cmになる。南極大陸周辺の島々に生息。海岸近くのゆるやかな斜面に繁殖地を持ち、メスは 1 回の繁殖で 1 個の卵を産む。巣は作らず、足の上に卵を置き、ダブダブの腹部の皮をすっぽりかぶせて抱卵する。小魚、オキアミ、イカなどを食べる。

3. 【海遊館で飼育しているその他のペンギンについて】

ジェンツーペンギン 英名 : Gentoo penguin 学名 : *Pygoscelis papua*

ペンギン科。頭頂部にある白い斑紋が特徴。成長すると体長約 75 cmになる。南極半島や南極周辺の島々に生息。小高い丘に雑草や小枝、小石で浅いクレーター状の巣を作り、メスは 1 回の繁殖で通常 2 個の卵を産む。小魚、オキアミ、イカなどを食べる。

アデリーペンギン 英名 : Adelie penguin 学名 : *Pygoscelis adeliae*

ペンギン科。成長すると体長約 70 cmになる。頭部から背部にかけて黒く、目の周りにある白い輪（アイリング）が特徴。メスはオスに比べ、一回り小さいことが多い。南極大陸とその周辺の島々に生息。自然界での繁殖時期は 10～11 月で、丸い小石で周辺を囲んだ浅いクレーター状の巣を作り、メスは 1 回の繁殖で通常 2 個の卵を産む。小魚、オキアミなどを食べる。

イワトビペンギン 英名 : Rockhopper penguin 学名 : *Eudyptes chrysocome*

ペンギン科。成長すると体長約 50cm になる。岩場をピョンピョンと飛び跳ねながら移動することからこの名前が付いた。目の上にある黄色い冠羽が特徴。沿岸の岩場の小石や雑草で巣を作り、メスは 1 回の繁殖で通常 2 個の卵を産む。ペンギンの中では気性がやや激しい。小魚やオキアミなどを食べる。

※イワトビペンギンは現在、海遊館ギャラリーで開催中の「発見！体験！ふれあいライブ館」で期間限定で展示しています。

添付写真



●親鳥のおなかの下から顔をのぞかせる赤ちゃん①



●親鳥のおなかの下から顔をのぞかせる赤ちゃん②